

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	利用者本位の生活ができるよう地域・家族とともに支えていくという意味を含め、毎朝の申し送り時「理念」の唱和をし、再認識している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者と共に月1回地域清掃を行い地域の一員としての役割を果たすよう努めている。町内会の行事にも参加させて頂き交流の場を広げている。今年より夜間パトロールにも参加している。		
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	民生委員・家族・町内会の方々に参加して頂き運営推進会議を開催し、その場において認知症についての理解を深められるように努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	外部評価や、情報開示に関する報告と、今後の取り組みについて、報告及び話し合いを行っている。そこでの貴重な意見を「笹貫便り」に掲載し、家族との共通理解を得るようにしている。		

鹿児島県 グループホーム笹貫の家 2ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携  市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターの職員とは、運営推進会議にて情報交換を行っている。また、生活保護課の担当者や介護保険課、高齢者福祉課とは、出向いてサービス上の相談・協力を得るようにしている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践  代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束マニュアルの再確認、毎月のミーティングにおいてスタッフの理解を深めている。玄関の施錠は、緊急時、止む追えない場合の三要件を満たした場合のみ行うようにしているが、必要なくなればすぐに解錠している。		
7		○虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	マニュアルを定期的に確認し虐待にあたることなどがどのようなことなのか、ミーティングにおいて確認しあっている。防止については、入浴時、身体チェックを行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修に参加したりミーティングでの内部研修において学ぶよう心掛けている。現在のところ成年後見制度の該当者はいないが、将来的なことを考えて話し合う場を設けていきたい。		

鹿児島県 グループホーム笹貫の家 2ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を行う際は、本人・家族に対し契約書の説明を行い、疑問点がないかを確認しながら行うよう心掛けている。内容について出来るだけわかりやすく、具体的に説明するよう努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱や、苦情相談ノートを設けているが、まずは何でも話せる雰囲気作りを心掛け、直接管理者を始め、職員に意見を言ってもらえるように努めている。また、運営推進会議を活用し家族・利用者の意見を反映出来るようにしている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度の管理者会議をはじめミーティングにより管理者は意見を聞く機会を持ち、会議で決まったことを、運営に反映させるよう努めている。		
12		○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、管理者からの連絡・相談を受け、職員の勤務状況や実績などを把握している。職員の能力に見合った職場への異動や、配置転換を適宜行っている。		

鹿児島県 グループホーム笹貫の家 2ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人内外の研修案内を提供し、スキルアップできるよう情報発信している。それを受け、各個人、必要とする研修に参加している。また、新人に対する研修は、日々の業務の中でベテラン職員により行われている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>管理者会議により、管理者同志の交流や情報交換が行え、また、運動会をはじめ他事業所との合同行事を行うなど、相互の交流を行うことで、お互いのスキルアップとなっている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>初回のアセスメントでは、本人や家族からの聞き取りを丁寧に行い入居後二週間ほど24時間シートにて記録し、本人の細かい情報を集め、ミーティングやカンファレンスにおいて共有しケアに活かすようにしている。</p>		
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>初回のアセスメントで家族からの要望や、ホームに対して望むことを出来る限り反映するよう心掛けている。面会に訪れやすい雰囲気作りや、何でも話しやすい関係づくりに努めている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>管理者との面談において、本人・家族が今必要としていることを見極め、グループホームに限らず、他施設の利用も視野に入れるなどの提案を行っている。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>本人と同じ目線に立ち、長年培ったきた知恵を借りて、スタッフが教えていただきながら、暮らしを共にするという関係を築いている。</p>		

鹿児島県 グループホーム笹貫の家 2ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係  職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人とスタッフの二関係でなく、その間に家族との連携を深めることで三角関係が出来、様々なことに共感しながら一緒に本人を支えている。家族・スタッフ間でも相談し合っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前に交流のあった方々の面会により、楽しい時間を過ごして頂き、関係の継続を支援している。家族の協力をもらい、親族での行事など積極的に参加して頂けるようお願いしている。		
21		○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の性格を把握し、利用者同士の相性を考慮し、トラブルにならないよう気を配りながら、互いの関係性を悪化させないよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された後も家族からの連絡や訪問は歓迎し近況などを伺っている。また、相談に応じたりしアドバイス等にも努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	共に過ごす中で、一人ひとりの思いをくみ、ケアに繋げるよう努めている。意思疎通の困難な方に対してもしぐさ、表情、行動からアセスメントしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に、本人や家族よりこれまでの暮らしぶりについての情報を得、カンファレンスにおいてスタッフ間で情報を共有し、把握するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝夕の申し送り時はもちろんのこと、その日の暮らしぶりや、ちょっとした変化の気付きを大切にし、情報を共有し、カンファレンスにおいて話し合うよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のカンファレンスでの課題の抽出とケアについての話し合いを行っている。面会時や担当者会議にて本人、家族とも話し合い、介護計画を作成している。必要時、現状に合わせた介護計画を作成している。		

鹿児島県 グループホーム笹貫の家 2ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録は日誌と介護記録に行っている。状態変化の激しいときは24時間シートを使用し、スタッフ間で情報を共有している。本人の言ったこと等気付きを記入できるよう記録している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	要望に応じて、訪問カットやマッサージ、各科の往診等も行っている。		
29		○地域資源との協働  一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会の方との関わりにより、地域行事に参加することができ、町内会の夜間パトロールにも参加している。ボランティアの受け入れ、本人の力を発揮できる機会を設けている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者各自にかかりつけ医があり、受診毎にホームでの日々の状況報告を行い、連携をとっている。		



鹿児島県 グループホーム笹貫の家 2ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>状況により、受診が必要になる場合には適切に支援している。往診のかかりつけ医の看護師とも連絡を密に行い、医師との信頼関係も築けている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>入院時はサマリーで、ホームでの本人の状況を伝えるなど情報交換を行っている。入院中は、看護師・相談員と連絡をとりながら現状を把握するよう努めている。退院に向けても同様に、連絡を取り合い受け入れがスムーズに行くようにしている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>看取りの経験はまだないが、看取りについての説明を受けたり、外部研修に参加している。その時が来た際は、終末期を見据えた利用者と家族に折に触れて、話し合いを持つようにしている。主治医の意見も伺い、その時の対応についても協力をお願いしている。</p>		
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>急変時の対応については、防火訓練時に合わせて応急手当の方法についての講習を受けたり、ミーティング等でマニュアルの確認を行っている。</p>		

鹿児島県 グループホーム笹貫の家 2ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年2回の防災訓練は、スタッフ全員の参加を前提とし、消火器等の取り扱いも把握し、避難方法についても研修を積んでいる。町内会・民生委員・地域の方々への参加協力も呼び掛けている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者には人生の先輩であるということを忘れず丁寧な言葉で分かりやすい声かけを心掛けている。一人ひとりを理解し、それぞれにあった対応の仕方や、声かけに努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	関わりを持つことで、表情や態度等で何をしたいのか、何をしてもらいたいのか、いくつかの選択肢を提案し、自己決定出来るようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の都合を無理強いするのではなく、その方のペースを大切にしている。利用者の性格やリズムを理解し、楽しく過ごせるよう心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	起床時整容し、好みの服を選んでももらい、整髪してもらっている。家族に協力していただき、外出する際には特別なおしゃれを楽しんでもらっている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買い物に同行されたり、野菜の下ごしらえ、片づけ、食事、下膳、食器洗い、トレー拭きなど出来ることは手伝ってもらっている。		

鹿児島県 グループホーム笹貫の家 2ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランスを考えた献立づくりを心掛け、その人に適した食事形態(刻み食・ミキサー食)で提供している。水分もこまめに摂ってもらうよう心掛けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声かけし見守り・介助している。夜間は洗浄剤にて消毒を行っている。また、定期的な歯科受診を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	各自の排泄パターンをスタッフが把握し、定時でのトイレ誘導・介助を心掛け、失敗を減らす努力をしている。日中はなるべく布パンツで過ごしていただけるよう支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとりの状況に合わせ水分量を確保する。個人の状況により、水分量・繊維質を多く摂取してもらうよう考慮したり、腹部マッサージも進めている。主治医に相談し、緩下剤も処方してもらったりしている。		

鹿児島県 グループホーム笹貫の家 2ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	基本的には一日おきに入浴して頂いている。出来る限り本人の希望に沿った入浴をこころがけている。拒否がある場合は、声かけの仕方を配慮したり、タイミングを押し量っている。		
46		○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	できるだけ本人のペースに合わせてるようにしている。昼寝やソファにての休息を促したり、就寝前はホットミルク等を提供し、安眠に繋げている。		
47		○服薬支援  一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬確認票うを作り、一人ひとりの服薬状況をスタッフ全員が確認・把握するよう努めている。処方の変更時も全員が情報を共有出来るように受診ファイルを作成し、確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴を把握し、得意な事、出来ることは行ってもらい、洗濯物たたみや食材の下ごしらえ等お手伝いして頂きながら、満足感を味わってもらっている。		
49	18	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望時をほじめ、買い物、散髪、家族との外出等出来る限り支援している。ホームでの外出行事を計画し、外出する機会を増やすように努めている。		

鹿児島県 グループホーム笹貫の家 2ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>お小遣いとして家族より預かり管理しており、使いたい希望があれば一緒に同行して買い物をしたり、代理にて行っている。いつでも使えるよう支援している。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>電話をかけたい希望があれば支援している。また、個人にかかってきた電話や手紙のやりとりなど本人の希望通りに出来ない部分についても支援を心掛けている。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共用の空間は、すっきりと落ち着いた居心地の良い空間づくりを心掛け、入居者も喜ばれている。室温は、利用者の希望にも合わせ、心地よい状態に設定している。音に敏感な方が多い為、不快な音を立てないように心掛けている。</p>		
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>ホールにはソファを置き、個人によっては気の合う者同士で座り、談笑したり、寛いだり、思い思いに過ごされている。</p>		

鹿児島県 グループホーム笹貫の家 2ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた家具や家族の写真などを置き、一人ひとりに合った空間づくりを心掛けています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリー構造になっており個々の居室には「表札」、トイレには「お便所」、浴室には「湯」の暖簾を掲げ、わかりやすい工夫をし、自立した生活の支援を行っている。		

**V アウトカム項目**

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない



鹿児島県 グループホーム笹貫の家 2ユニット

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
		○	3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない